

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールIV (Seminar IV) 264046-14000					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)		
科目区分	ゼミナー ル科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

牧野ゼミナールIVでは、ゼミナールIIIで学修した財政の知識に基づき、ゼミ生自身が関心を持つ財政や経済に関するテーマを設定し、個別にそのテーマについて調査・研究を行なう。また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指します。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

ゼミ生による発表形式で授業を行う。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」「ゼミナールIII」の知識を有すること。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 卒業論文のテーマ設定と構成をしっかりと作成できる。
- (ii) 卒業論文を論理的に作成できる。
- (iii) 経済について考察することができる。

⑥ テキスト（教科書）

特になし。各自の卒業論文のテーマに沿った図書を用いること。

⑦ 参考図書・指定図書

竹内信仁編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社
 竹内信仁編(2013)『スタンダードマクロ経済学』中央経済社
 竹内信仁編著(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社
 『図説日本の財政』(各年度版)

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				50%	30%	20%		100%
(i) 卒業論文のテーマ設定と構成をしっかりと作成できる。				10%	10%	6%		26%
(ii) 卒業論文を論理的に作成できる。				20%	10%	6%		36%
(iii) 経済について考察することができる。				20%	10%	8%		38%
フィードバックの方法	卒業論文の内容のチェックとアドバイスを適宜行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生による調査・研究の内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。

⑩ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	オリエンテーション	筆記用具	卒業論文のテーマとなりうる経済や社会情勢の情報収集 60 分以上
2	卒業論文のテーマ設定に向けた議論	筆記用具	卒業論文のテーマの方向性の検討 60 分以上
3	卒業論文のテーマ案作成のための資料収集	筆記用具	卒業論文のテーマの方向性に沿った資料収集 60 分以上
4	卒業論文のテーマ案の作成	筆記用具	卒業論文のテーマ案を 2, 3 個考える 60 分以上
5	卒業論文のテーマ案についての議論	筆記用具	考えた卒業論文のテーマ案の内容整理 60 分以上
6	卒業論文のテーマ設定と全体報告	筆記用具	全体報告のための資料の作成 60 分以上
7	卒業論文のテーマに関連する資料収集等	筆記用具	構成の作成のための資料収集等 60 分以上
8	卒業論文の構成の作成に向けた議論	筆記用具	卒業論文の構成案の作成のための設定したテーマの課題の考察 60 分以上

9	卒業論文の構成案の作成	筆記用具	考察した課題に基づく卒業論文の構成案の作成	60分以上
10	卒業論文の構成案についての議論	筆記用具	議論の結果を受けての構成案の方向性の検討	60分以上
11	卒業論文の構成案の修正のための資料収集	筆記用具	卒業論文の構成案の修正のための資料収集	60分以上
12	卒業論文の構成案の修正	筆記用具	卒業論文の構成の修正案の作成	60分以上
13	卒業論文の構成の修正案についての議論	筆記用具	議論の結果を受けての構成案の再検討	60分以上
14	卒業論文の構成案の確定に向けた議論	筆記用具	卒業論文の構成案の確定と資料収集	60分以上
15	卒業論文の構成案の確定と全体報告	筆記用具	全体報告のための資料の作成	60分以上
16	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の1程度まで作成	60分以上
17	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の1程度までの修正と加筆	60分以上
18	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の2程度まで作成	60分以上
19	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の2程度までの修正と加筆	60分以上
20	中間報告会と議論	筆記用具	中間報告のための資料の作成	60分以上
21	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の3程度まで作成	60分以上
22	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の3程度までの修正と加筆	60分以上
23	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の4程度まで作成	60分以上
24	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の4程度までの修正と加筆	60分以上
25	中間報告会と議論	筆記用具	中間報告のための資料の作成	60分以上
26	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の5程度まで作成	60分以上
27	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の5程度までの修正と加筆	60分以上

28	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文全体を作成	60分以上
29	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文全体の修正と加筆	60分以上
30	卒業論文の確認と提出	筆記用具	卒業論文の完成	60分以上

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生によるテキストの内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性